

高等教育機関の矜持と質保証 —多様化の中での倫理と学術的誠実性—

独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 編著



- 高等教育機関は、高等教育の場であり、かつ、学術研究の場です。よって、矜持（＝学術の基礎（倫理）と学術的誠実性）をもって教育研究を推進しなければなりません。
- カンニング、捏造、論文代行、軍事目的研究、偽の学位、インチキ学術雑誌……。本書では、大学にはびこる倫理と学術的誠実性を脅かす問題を、高等教育の質保証という課題に則して整理します。
- 大学質保証について、吉川弘之先生（元東京大学総長）、佐々木毅先生（元東京大学総長）、鈴木典比古先生（国際教養大学理事長・学長（当時））からの有益な示唆に富むインタビューを掲載しています。

A5判・定価（本体 2,310 円 10%税込）

発行元：株式会社ぎょうせい

<https://shop.gyosei.jp/>

目次

第一部 高等教育機関の倫理

第1章 高等教育が期待される社会環境

- 第1節 ユニバーサル段階の高等教育
- 第2節 日本の雇用環境の変化と人生100年時代
- 第3節 高等教育機関としての矜持

第2章 「知識の使い方」の教育研究：分野横断的教育研究

- 第1節 科学者の社会的責任
- 第2節 教育の質保証
- 第3節 専門職大学
- 第4節 学習成果の時代の倫理
- 第5節 普遍的な価値としての真理の探求

第3章 濃密な人材養成：10年スパンで物事を考える

- 第1節 本音主義の台頭
- 第2節 濃密な人材養成
- 第3節 大学と社会のポジショニング
- 第4節 学習成果
- 第5節 研究に基盤を持った教育

第4章 教材のグローバル化

- 第1節 教育の神髄は？
- 第2節 高等教育のグローバル化
- 第3節 グローバルとローカルそしてリベラル・アーツ
- 第4節 学習成果

第二部 学術的誠実性

第1章 学業不正

- 第1節 外注型不正：MyMaster 事件
- 第2節 外注型不正行為は増えているのか

- 第3節 どうすれば良いのか：TEQSA と QAA の対応
- 第4節 「学術的誠実性」とは何か？
- 第5節 日本における学術的誠実性と学習成果測定における不正行為

第2章 大学スポーツ：ノースカロライナ大学チャペルヒル校事件

- 第1節 経緯
- 第2節 南部大学・学校協会は何をやっていたのか？
- 第3節 全米大学運動協会は何をやっていたのか？

第3章 研究という大学の使命と誠実性

- 第1節 軍事研究
- 第2節 研究不正

第4章 まとめ：大学における学術的誠実性を脅かすもの

第三部 高等教育の流動性が抱える課題

第1章 ディグリー・ミル、アクレディテーション・ミル

- 第1節 ディグリー・ミル
- 第2節 アクレディテーション・ミル
- 第3節 ハゲタカジャーナル（ジャーナル・ミル）
- 第4節 研究者自身の誠実性

第2章 “Qualifications” とインテグリティ —国家資格枠組に期待される役割—

- 第1節 “Qualifications” とは何か？
- 第2節 学習成果を高めるための国家資格枠組
- 第3節 欧米諸国の事例
- 第4節 日本への示唆